

特別展「大安寺のすべて一天平のみほとけと祈りー」

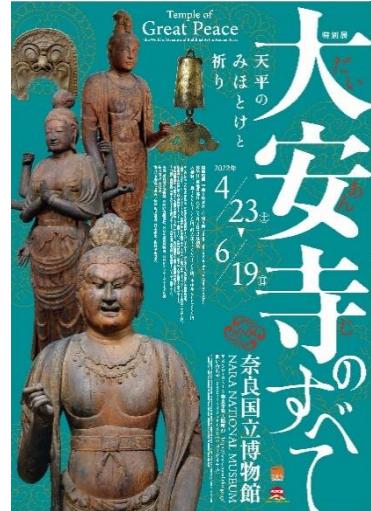
2022年4月23日（土）～6月19日（日） 会場：奈良国立博物館 東・西新館

2022年4月23日（土）～6月19日（日）の期間、奈良国立博物館にて特別展「大安寺のすべて一天平のみほとけと祈りー」を開催いたします。

わが国最初の天皇発願(ほつがん)の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍(がらん)を構えた大安寺。奈良時代、東大寺や興福寺などとともに南都七大寺の一つに数えられ、一時期を除き筆頭寺院としての格を有していました。1250年の時を経て今も大安寺に伝わる9体の仏像は、奈良時代を代表する木彫群の一つです。かつての伽藍の発掘調査で出土した品々からは往時の壮大な堂塔や華やかな営みの様子をうかがい知ることができます。また、菩提僊那(ぼだいせんな)、空海(くうかい)、最澄(さいちょう)をはじめ、1000人にも及ぼうかという国内外の僧侶たちがここに集い、後に諸方面で活躍しました。天智天皇の発願により造

られたとみられるかつての本尊・釈迦如来像は、今は失われてしまいましたが、平安時代には奈良・薬師寺金堂の薬師三尊像よりも優れていると評され、古代から中世の仏像制作に影響を与えました。

本展では、まさに時代をリードする大寺院であった大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度からご紹介します。



開催概要

特別展名：特別展「大安寺のすべて一天平のみほとけと祈りー」

会期：2022年4月23日（土）～6月19日（日）

会期中に展示替があります。前期：4月23日～5月22日、後期：5月24日～6月19日

会場：奈良国立博物館 東・西新館（〒630-8213 奈良市登大路町50番地）

休館日：毎週月曜日 ※ただし5月2日（月）は開館

開館時間：午前9時30分～午後5時（4月29日～5月7日は午後7時まで）※入館は閉館の30分前まで。

観覧料金：一般 1,800（1,600）円、高大生 1,500（1,300）円、小中生 800（600）円

※（）は前売・20名以上の団体料金。※前売券の販売は2月24日（木）から4月22日（金）まで。

※障害者手帳またはミライロID（スマートフォン向け障害者手帳アプリ）をお持ちの方（介護者1名を含む）、奈良博プレミアムカード会員の方（1回目及び2回目の観覧）は無料（要証明）。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員（学生）の方は400円、同（教職員）の方は1,700円で当日券をお求めいただけます（要証明）。参加校など詳細は、奈良国立博物館公式ホームページなどでご確認ください。

※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です（一般と小学生以下を除く）。

※館内が混雑した場合は、入場を制限する場合があります。

※本展の観覧券で、名品展（なら仏像館・青銅器館）もご覧になれます。

【販売場所】当館観覧券売場、近鉄主要駅、ローソンチケット（Lコード：52100）、チケットぴあ（Pコード：993-539）、イープラスなど主要プレイガイド、セブン-イレブン他コンビニエンスストア※チケット購入時に手数料がかかる場合もあります。※ご購入後の払い戻しはできません。※詳細はホームページなどでご確認ください。

主催：奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿

特別協力：大安寺

協力：中川政七商店、奈良 蔦屋書店、日本香堂、仏教美術協会

お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5542-8600

奈良国立博物館ホームページ：<https://www.narahaku.go.jp/>

展覧会公式Twitter：@daianjinarahaku

【1章 大安寺のはじまり】-----

大安寺は、寺伝によると、聖徳太子が建立した仏教道場である熊凝精舎(くまごりしょうじや)に由来し、その創始は舒明(じょめい)天皇発願の百濟大寺(くだらのおおでら)に遡るとされます。その後、高市大寺(たけちのおおでら)、大官大寺(だいかんたいじ)へと移転を重ね、平城京遷都に伴い、靈亀二年(716)、平城京左京六条・七条四坊の地に、大安寺として広大な寺地を構えます。本章では、大安寺に至るまでの変転の歴史を、吉備池廃寺(きびいけはいじ)(百濟大寺跡)、藤原京左京六条三坊(推定高市大寺跡)、大官大寺跡の出土品などから辿ります。



屋根の隅木先に取り付けられた大型で華やかな装飾金具と、釘頭を花形につくる長大な釘。飛鳥の地に當まれた前身寺院・大官大寺の格の高さを物語る。

隅木先金具・鉄釘
(すみぎさきかなぐ・てつくぎ)
(大官大寺跡出土)
飛鳥時代(7~8世紀)
奈良文化財研究所【通期】



大安寺は平城京遷都とともに、左京の一角に伽藍を構えた。その寺域にかかる前方後円墳から出土した大型の埴輪。

奈良市指定文化財
家形埴輪(いえがたはにわ)
(杉山古墳出土)
古墳時代(5世紀)
奈良市埋蔵文化財調査センター
【通期】

【2章 華やかなる大寺】-----

奈良時代、東大寺建立後の一時期をのぞき、官寺筆頭の寺格を有した大安寺。旧境内地の発掘調査によって、壮麗な大寺の姿が明らかになりました。当時の大安寺の活動を彷彿とさせる出土品を紹介すると共に、いまなお大安寺に伝わる奈良時代のみほとけを一堂に集め、往時の伽藍の輝きを再現します。



大安寺の歴史・仏像・仏具・領地など、大寺院の全てが記された屈指の古代寺院史料。

重要文化財 大安寺伽藍縁起并流記資財帳
(だいあんじがらんならびにるきしざいちょう)
奈良時代(8世紀)
千葉・国立歴史民俗博物館【通期(巻き替えあり)】



(左) 大安寺本堂の秘仏本尊。頭部は後補であるが、均整のとれた体部の造形は奈良時代彫像の特徴を示す。着衣や装身具が精緻に彫り出されており、中国・唐の仏像の影響が強い。
重要文化財 十一面觀音立像(じゅういちめんかんのんりゅうぞう)【前期】

(中) 大安寺の嘶堂(いななきどう)に安置される秘仏。怒りの表情を示し、胸飾と足首に蛇が巻き付く表現から、当初から馬頭観音として造られた可能性が高い。体から伸びる6本の腕や髪(もとどり)は後補。
重要文化財 伝馬頭観音立像(でんぱとうかんのんりゅうぞう)【後期】

(右) 本尊の十一面觀音立像と作風の類似が指摘される。顔は怒りの表情だが着衣などは菩薩形で、当時の尊名は不明。奈良時代に伝えられた初期の密教尊像である可能性がある。
重要文化財 伝楊柳觀音立像(でんようりゅうかんのんりゅうぞう)【通期】
いずれも奈良時代(8世紀) 奈良・大安寺



大安寺の造営に関わった僧・道慈(どうじ)が唐から多数持ち帰ったとされる唐三彩(とうさんさい)。宝相華文(ほうそうげもん)などを型で押した後、三色の釉薬(ゆうやく)で色を付けている。唐三彩を模倣した国産の陶枕も作られた。

陶枕(とうちん)(大安寺旧境内出土)
中国・唐(8世紀)
奈良文化財研究所【通期】



かつて、大安寺の塔は東大寺の塔に次ぐ規模の七重の双塔であった。本品は西塔の相輪に下げられていた風鐸。大型で鍍金(とぎん)が施され、塔の威容を物語る。

風鐸(ふうたく)(大安寺旧境内出土)
平安時代(9世紀)
奈良市埋蔵文化財調査センター【通期】

【3章 大安寺釈迦如来像をめぐる世界】-----

大安寺の本尊であった釈迦如来像は、飛鳥の地において、天智天皇の発願により造られたとされます。今は失われて姿を見ることができませんが、平安時代には薬師寺金堂の薬師三尊像よりも優れていると評されたほどであり、その後も日本随一の理想的な釈迦像と讃えられました。大安寺釈迦如来像が造られた頃の仏像や、記録、説話など様々な手がかりにより、その姿を浮かび上がらせます。



華麗な朱の衣を身にまとった釈迦如來を描く、平安仏画を代表する傑作。優美で理想的な姿には、平安時代に多くの釈迦像が規範にした大安寺像の面影が投影されているのだろう。

国宝 釈迦如来像(しゃかによらいぞう)
平安時代(12世紀)
京都・神護寺【展示期間: 6月7日~6月19日】



南都六宗の一つである俱舎宗(くしゃしゅう)の諸尊を描いた画像。中央の釈迦如來は奈良時代に描かれた東大寺伝來の仏画を写したもので、その姿は記録に見える大安寺釈迦如來像にはほぼ一致する。

国宝 俱舎曼荼羅(くしゃまんだら)
平安時代(12世紀)
奈良・東大寺【後期】

【4章 大安寺をめぐる人々と信仰】-----

奈良時代の大安寺は、日本の僧のみならず、様々な外国僧が止住する、平城京において最も国際性豊かな仏教道場でした。多い時期には1000人の僧が集まったと言われます。大安寺の造営を指揮した道慈、東大寺の大仏開眼に関わったインド僧・菩提僧行那(ばだいせんな)、鑑真を日本に招いた普照(ふしょう)、また、平安時代においては、大安寺僧・勤操(ごんぞう)から虚空蔵求聞持法を授かり大安寺別当も務めた空海、石清水八幡宮の開祖となった行教(ぎょうきょう)など、古代の大安寺を取り巻く数々の名僧の姿や事績を紹介します。



唐に渡った後、長安の西明寺(さいみょうじ)で学び、帰國後大安寺の造営に力を尽くした僧。本品は、道慈の出身氏族である額田氏(ぬかたし)の氏寺・額安寺(かくあんじ)に、聖徳太子摂政像と対幅の形で伝來した。

道慈律師像
(どうじりっしちぞう)
室町時代(14~15世紀)
奈良国立博物館【通期】



石清水八幡宮を創建した大安寺僧・行教の像と伝わる。堂々たる量感をそなえた一木造の彫像。

重要文化財
行教律師坐像
(ぎょうきょうりっしちざぞう)
平安時代(9世紀)
京都・神応寺【通期】



中国僧・宝誌の顔から十一面觀音が現れたという奇瑞を表す。かつて大安寺にも同じ姿の宝誌像があつたという。

重要文化財
宝誌和尚立像
(ほうしおしょうりょうゆうぞう)
平安時代(11世紀)
京都・西往寺【通期】

【5章 中世以降の大安寺】-----

平安時代の中頃、寛仁元年（1017）の火災で伽藍の大部分が焼失したことによって、かつての威容が失われた大安寺。再建の後、興福寺の支配下におかれるとともに、叡尊の影響により、西大寺の末寺として新たに律宗の拠点ともなりました。古代の威容との対比で捉えられてきた中世の大安寺ですが、かつて大安寺にあった華麗な舍利容器や四天王像の模刻など注目される作品や、伽藍の復興や仏像の修理に関する大安寺僧の活動などを通じて、知られざる中世以降の大安寺像を描きます。



精緻な透彫が美しい、舍利容器の最高傑作。かつて大安寺に安置されていた。

国宝 金銅透彫舍利容器
(こんどうすかしづらしゃりようき)
鎌倉~南北朝時代(13~14世紀)
奈良・西大寺【通期】



釈迦が沙羅双樹のもとで涅槃(死)に入る情景を表す。本図の画家・専有(せんゆう)は興福寺に所属し、大安寺絵所の絵仏師として、興福寺の影響下にあった大安寺の仏画制作も担っていた。

重要文化財 仏涅槃図
(ぶつねはんず)
南北朝時代 康永4年(1345)
東京・根津美術館【前期】

【各限定300セット】オリジナルグッズ付チケット

中川政七商店謹製の本展オリジナルグッズと前売券のお得なセットを販売！

ハンカチセット券 3,000円（一般のみ）

重要文化財「伝馬頭観音立像」のイメージを刺繡でデザインしました。サイズは44cm角。アイロン掛けなしでも気軽に使いいただけます。



マグネットしおりセット券 2,300円（一般のみ）

重要文化財「伝馬頭観音立像」と大安寺の鬼瓦をかわいくデザインした2個セットです。麻生地を使用しマグネットを取り付けています。しおりやクリップ、付箋がわりの目印としてもお使いいただけます。



どちらも
限定
300
セット

販売期間：2022年2月24日（木）～4月22日（金）

販売場所：ローソンチケット（Lコード：52100）・チケットぴあ（Pコード：993-539）・イープラス

※いずれも、なくなり次第終了します。

※チケットに残数が発生した場合は、会場特設ショップでグッズのみ販売します（ハンカチ1650円、マグネットしおり935円 いずれも税込）。

※いずれのグッズも会期中、会場入口でお引き換えください。

※デザインが変更になる場合があります。

公開講座

[第1回] 4月29日（金・祝）

「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」

講師：上原真人氏（京都大学名誉教授）

受付期間：3月21日（月・祝）午前10時～4月4日（月）午後5時

[第2回] 5月21日（土）

「大安寺の祈りと営み 一出土品を中心に一」

講師：中川あや（奈良国立博物館企画室長）

受付期間：4月4日（月）午前10時～4月18日（月）午後5時

[第3回] 6月11日（土）

「大安寺の仏像」

講師：稻本泰生氏（京都大学教授）

受付期間：5月2日（月）午前10時～5月16日（月）午後5時

時間-----午後1時30分～3時（午後1時開場）

会場-----奈良国立博物館 講堂

定員-----各90名（事前申込制、抽選による座席指定制です）

申込方法----奈良国立博物館ホームページ「講座・催し物」→「公開講座」申込フォームより必要事項をご入力の上、お申ください。（WEB申込みとなります）

※当選者には参加証をお送りいたします。当日必ずお持ちください。※詳細は奈良国立博物館ホームページをご確認ください。

※聴講無料（展覧会観覧券等の提示は不要です）。※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

大安寺ってどんなお寺？

JR 奈良駅の1kmほど南方にある、穏やかな田園風景の中にたたずむ真言宗のお寺です。病気平癒、中でも“がん封じ”的寺として信仰を集めています。毎年春には重要文化財・伝馬頭観音立像、秋には重要文化財・十一面観音立像の特別公開を行うほか、重要文化財・伝楊柳観音立像をはじめとする天平仏は常時公開しています（2023年春に宝物殿リニューアルオープン予定）。現在の伽藍の南方には巨大な塔の基壇が残り、往時の威容を偲ばせます。



【大安寺】〒630-8133 奈良市大安寺2-18-1 TEL 0742-61-6312

拝観時間 午前9時～午後5時 年中無休 <http://www.daianji.or.jp/>

特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」広報用画像一覧

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。

下記、申込フォームよりお申込ください。

広報画像申込フォーム (WEB)

<https://forms.gle/MFFMt6gPn1FXju2T8>

※難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■広報画像をご使用の際は、別紙に記載の【画像使用全般に関する注意】を必ずご確認ください。



【1】 	【2】 	【3】 	【4】
【5】 	【6】 	【7】 	【8】
【9】 	【10】 	【11】 	【12】
【13】 	【14】 	【15】 	【16】

報道に関するお問合せ

特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」広報事務局（ネネラコ内）宛
TEL : 06-6225-7885 FAX : 06-7635-7587 E-mail : daiANJI-nara@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」広報用画像申込書

[画像使用全般に関しての注意]

- 本展広報目的でのご使用に限ります（会期終了まで）。
- 展覧会名、会期、会場名、タイトル、作品キャプションを必ず掲載してください。作品キャプションは省略しないでください。
- WEB媒体に掲載する場合、画像を72dpi以内に設定のうえコピーガードを施し、本展終了後は画像の削除をお願いいたします。
- 作品画像は全図でご使用ください。トリミングや文字を重ねるなど画像の加工・変更はご遠慮ください。
- 本展会期中であっても、再放送や転載をされる場合は個別に申請くださいますようお願いいたします。
- 基本情報、会期などの確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階でお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載、放送後は、掲載誌、同録テープを、広報事務局へ1部お送り願います。

[広報画像クレジット一覧]

番号	クレジット [指定・作品名・時代・所蔵]
□ 1	隅木先金具・鉄釘（大官大寺跡出土） 飛鳥時代（7～8世紀） 奈良文化財研究所【通期】
□ 2	奈良市指定文化財 家形埴輪（杉山古墳出土） 古墳時代（5世紀） 奈良市埋蔵文化財調査センター【通期】
□ 3	重要文化財 大安寺伽藍縁起并流記資財帳 奈良時代（8世紀） 千葉・国立歴史民俗博物館【通期（巻き替えあり）】
□ 4	重要文化財 十一面觀音立像 奈良時代（8世紀） 奈良・大安寺【前期】
□ 5	重要文化財 伝馬頭觀音立像 奈良時代（8世紀） 奈良・大安寺【後期】
□ 6	重要文化財 伝楊柳觀音立像 奈良時代（8世紀） 奈良・大安寺【通期】
□ 7	陶枕（大安寺旧境内出土） 中国・唐（8世紀） 奈良文化財研究所【通期】
□ 8	風鐸（大安寺旧境内出土） 平安時代（9世紀） 奈良市埋蔵文化財調査センター【通期】
□ 9	国宝 釈迦如来像 平安時代（12世紀） 京都・神護寺【展示期間：6月7日～6月19日】
□ 10	国宝 俱舍曼荼羅 平安時代（12世紀） 奈良・東大寺【後期】
□ 11	道慈律師像 室町時代（14～15世紀） 奈良国立博物館【通期】
□ 12	重要文化財 宝誌和尚立像 平安時代（11世紀） 京都・西往寺【通期】
□ 13	重要文化財 行教律師坐像 平安時代（9世紀） 京都・神応寺【通期】
□ 14	国宝 金銅透彫舍利容器 鎌倉～南北朝時代（13～14世紀） 奈良・西大寺【通期】
□ 15	重要文化財 仏涅槃図 南北朝時代 康永4年（1345） 東京・根津美術館【前期】
□ 16	メインビジュアル※クレジット不要

貴社名／				
お名前／				
部署／	ご所属／			
貴媒体名／	媒体種／			
サイトURL／				
掲載号・露出予定日／	月号（　　月　　日号）／	月	日発売予定	<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
TEL／	FAX／			
E-MAIL／				
媒体プレゼント用チケット／ <input type="checkbox"/> 希望（2組4名まで）※1点以上の広報用画像使用必須 ※チケットの発送は2022年4月中旬頃になります お送り先／〒				

報道に関するお問合せ

特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」広報事務局（ネネラコ内）宛
TEL：06-6225-7885 FAX：06-7635-7587 E-mail：daijani-nara@nenelaco.com
〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル